

《Lesson 1》 It △△ for ○○ to □□ の文

《 It △△ for ○○ to □□ 》

- (1) この it は「それ」とは訳さない（仮においてある主語なので「**形式主語**」と呼ばれる）。
- (2) “It △△ for ○○ to □□” は、主語が長い時によく使われる形。
- (3) 意味：「○○にとって（○○には）□□することは、△△です」
- (4) 「動名詞」や「to不定詞」を主語とした文の言い換えでよく使われる。
（「動名詞」「to不定詞」が長い場合は、It △△ for ○○ to □□が好まれて使われる）

<例> Practicing soccer is fun for me. } (サッカーを練習することは、私には楽しいです)
To practice soccer is fun for me. }
= **It is fun for me to practice soccer.**

- (5) **It will be ～.** や **It should be ～.** のように**助動詞を足すことも可**。

It △△ for ○○ to □□

(○○にとって/○○には、□□することは、△△です)

<例> It is difficult for me to answer this question.

(私にとって、この質問に答えるのは難しいです)

It will be impossible for my group to finish this in time.

(私のグループには、これを時間内に終わらせるのは不可能でしょう)

【 It △△ for ○○ to の文：作り方】

ステップ①：「主語」を見つけて “to □□” (to不定詞) の形にする。

ステップ②：主語が「誰（何）にとってなのか」を見つけて “for ○○” の形にする。

ステップ③：主語が「何（どういう状態）なのか」を見つけて “It △△” の形にする。

ステップ④：“It △△ for ○○ to □□” の形にする。

<例1> 「私にとって、この質問に答えるのは難しいです」

ステップ①：「主語」を見つけて “to □□” (to不定詞) の形にする。

主語：「この質問に答えること」 = to answer this question

ステップ②：主語が「誰にとってなのか」を見つけて “for ○○” の形にする。

誰にとって：「私」 = for me

ステップ③：主語が「何なのか」を見つけて“It △△”の形にする。

主語が何なのか：「難しい」=It is difficult

ステップ④：“It △△ for ○○ to □□”の形にする。

It is difficult for me to answer this question.

<例2> 「私のグループには、これを時間内に終わらせるのは不可能でしょう」

ステップ①：「主語」を見つけて“to □□”（to不定詞）の形にする。

主語：「これを時間内に終わらせること」= to finish this in time

ステップ②：主語が「何にとってなのか」を見つけて“for ○○”の形にする。

何にとって：「私のグループ」= for my group

ステップ③：主語が「何なのか」を見つけて“It △△”の形にする。

主語が何なのか：「不可能でしょう」=It will be impossible

ステップ④：“It △△ for ○○ to □□”の形にする。

It will be impossible for my group to finish this in time.
